

令和3年度 第1回碧南市環境審議会 会議録

日 時 令和3年10月14日（木）午後1時30分～午後2時35分

場 所 碧南市役所 7階 議員大会議室

出席者 鈴木 並生、生田 讓、榊原 利夫、水野 博史、奥村 晋平、
神谷 昌明、平松 常一、宮崎 哲也、平松 徳一、永坂 幸子、
竹原 幸子、前田 善明、谷澤 安彦、岩田 忠造、河隈 孝之

欠席者 岡本 耕也、鈴木 泰博、黒田 昌司、小玉 貴和（19名中15名出席）

事務局 永坂 智徳、中嶋 忠彦、澤田 貫、金原 茂雄、田中 里沙

傍聴者 なし

1 あいさつ

(1) 市長あいさつ

(2) 会長あいさつ

2 議 題

(1) 令和2年度における環境の状況について（報告）

【環境の状況に関する報告書 P.4～25】

ア 大気の概要

(ア) 二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）

西端大気汚染測定所で測定した結果、環境基準に適合し、ほぼ横ばいの状況で推移している。

(イ) 大気中ダイオキシン

市役所駐車場にて測定した結果、環境基準に適合し、ほぼ横ばいの状況で推移している。

イ 水質の概要

(ア) 河川のBOD

環境基準に適合している。

(イ) 湖沼（油ヶ淵）のCOD

環境基準には適合していない。生活排水の流入や閉鎖性水域のため、水の汚れが滞留しやすいことが原因として考えられる。

(ウ) 海域（衣浦湾）のCOD

環境基準に適合している。

ウ 騒音・振動の概要

(ア) 環境騒音

市内8地点で測定した結果、全調査地点で環境基準に適合している。

(イ) 自動車騒音

概ね5年間で市内10地点を測定しており、約99%の地点で環境基準以下、全ての地点で要請限度基準以下だった。

エ 公害苦情の概要

令和2年度で49件の苦情があった。最も多かったのは騒音に関するもので、製造業、建設業等の事業所活動に伴う騒音や近隣住宅からの騒音苦情等である。

質疑応答

委員 A： 油ヶ淵のCODは資料にある平成28年度からずっと基準値を超えているが、何か対策はしているのか。

事務局： 生活排水の流入と閉鎖性水域という特性により油ヶ淵のCODの数値が高くなっている。現在実施している対策の一つとして、知立建設が主体となり干潮時に高浜水門を開門し、勢い良く水を放流することで水の流れを作り循環の促進をしている。県の報告では透視度はよくなったとのこと。回数を重ねることでCODにおいても数値が良くなると考えている。

委員 A： 生活排水については何かしないのか。

事務局： 生活排水の流入により汚濁が進むため、高度浄化槽の設置や下水道の接続の整備を進めることで改善していく。下水道の接続について、接続率を上げていくことが重要な対策となる。

委員 A： いずれは基準値を満たすのか。

事務局： 以前はもっと水質が悪く、現在でも基準値は満たしていないが良くなってきている。水質の改善には時間がかかるため今後も注視していく。

委員 B： 水門の開閉を実施した際に、長田川流域の田が水没したことがある。水

質の改善に効果があるなら実施するのは構わないが、実施の時期等には注意してほしい。

事務局： 県に現地の実情を認識してから実施するよう話した。

委員 C： 市の測定地点とは違うが、市民会議では油ヶ淵流域 5 地点で水質測定を
しており、近年 COD は下がってきている。

委員 D： 先日油ヶ淵の水質が良くなったことが新聞に掲載されていた。知人に聞
かれたため質問するが、油ヶ淵の釣った魚は食べても問題ないか。

事務局： COD 数値の違いについて、観測地点の違いもあるが、市の測定では見
合橋の中央部から水を採取しており、油ヶ淵護岸と中央の採取場所の違い
もあると考えている。

COD は水の汚れの指標であり毒ではない。

委員 E： 武豊火力が稼働を始めたため、大気や海域等への影響に注視してほしい。

事務局： 現在市内 3 地点で大気の観測をしている。各観測所では基準値を満たし
ており安定している。発電事業者は環境に気を付けて事業をしており、碧
南火力においても基準値を大幅に下回っているため安心してもらいたい。

(2) 第 3 次碧南市環境基本計画の進捗状況について（報告）

【環境の状況に関する報告書 P. 26～39】

令和 3 年 3 月に第 3 次碧南市環境基本計画を策定した。率先して取り組むべき施策
を 15 のリーディングプロジェクトとしてまとめ、活動している。昨年度取り組んだ
主な事業は以下のとおり。

ア 自然環境の保全

(ア) 水路・河川浄化プロジェクト

環境課による定期的な水質の環境監視、公民館等での廃食用油回収等を実施し
ている。

(イ) よみがえれ油ヶ淵プロジェクト

学校、市民団体、周辺住民等による油ヶ淵の水環境モニタリングや周辺清掃を
実施している。また、愛知県と油ヶ淵周辺 4 市で構成される油ヶ淵水質浄化促進
協議会において、清掃イベントや啓発イベントを開催しているが、令和 2 年度は
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

(ウ) 外来種駆除推進プロジェクト

碧南高校、へきなん市民環境会議及び西三河南部生態系ネットワーク協議会と協力し、オオキンケイギク駆除活動を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、一斉駆除は行わず職員での駆除活動を実施した。

イ まちづくり・ライフスタイル

(ア) 身近な乗り物プロジェクト

電気自動車充電設備の運営始め、事業用次世代自動車購入費補助事業を開始し、5件の補助を実施した。

(イ) その他、まちづくりに関する活動

秋のクリンピーときれいな街づくりでは新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小したが、市民・各種団体とともに清掃活動を実施し、街の美化を啓発した。

ウ ひとづくり・環境意識への種まき

(ア) 環境きっかけプロジェクト

へきなん市民環境会議の企画・運営により温暖化防止の啓発講座を実施した。例年実施している自然観察会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

エ 資源循環・低炭素

(ア) 再生可能エネルギー（太陽光等）利活用推進プロジェクト

スマートハウス設備設置費補助を実施した。

オ 温室効果ガス削減量の現況と推移

平成30年度の碧南市温室効果ガス排出量は942千t-CO₂で、基準年度である平成25年度対比10.2%の減少となった。

カ 碧南市スマートハウス設備設置費補助事業

令和2年度は一体的導入（太陽光、エネルギー管理システム、蓄電池）30件、一体的導入（太陽光、エネルギー管理システム、次世代自動車充給電設備）0件、燃料電池20件、蓄電池80件、次世代自動車充給電設備1件、エネルギー管理システム24件の合計155件、1,839万円の補助を実施した。

今後もリーディングプロジェクト、地球温暖化対策の推進について事業を着実に実行していく。

質疑応答

委員 F： 二酸化炭素の数値について、昨年の資料と数字が異なっているがどうい
うことか。

事務局： 数値が異なる理由の一つとして、二酸化炭素の算出方法に使っている、
国が示す排出係数が昨年会議時から修正されたことがあげられる。また、
電力小売化が進み、公表されない電力量が増加してきたため、昨年までの
算出方法では不確かな排出量を計算することになる。したがって、計画の
変更にあわせ算出方法を変え、環境省が発表している排出量を使用するこ
ととした。

委員 F： 継続性の点では問題ないのか。

事務局： 目標値は削減量で定めており、算出方法の変更において、基準年度も環
境省が発表している排出量に変更しているため、継続性は担保されている
と考える。

委員 G： 外来生物の駆除の基準はあるのか。

事務局： 資料に掲載している、オオキンケイギク、スパルティナは生態系に影響
を及ぼす特定外来生物である。植物は比較的駆除がしやすいため一斉駆除
活動をしている。特定外来生物は他にアライグマやヌートリアなども指定
されているが、哺乳類は捕まえることが難しい。アライグマやヌートリア
を捕獲した際には環境課へ連絡あれば引き取りに行く。

会 長： 温室効果ガスは二酸化炭素のことか。

事務局： 温室効果ガスは複数の種類が含まれているが、一番主だって排出されて
いるものが二酸化炭素である。他にメタンや一酸化二窒素といったものも
ある。メタンは農作業や畜産業などからも排出されているが量は多くなく
影響は少ない。

委員 H： 二酸化炭素の排出量において産業部門が最も多くなっているが、対策を
みると個人向けの内容が多い。企業向けに対し対策があれば教えてほしい。

事務局： 企業向けの支援として、市ができることとしてまずは事業用次世代自動
車購入費の補助を実施している。時限措置で実施していたが、国が掲示し
ている温室効果ガスの削減目標が引き上げられたことに伴い、期限を撤廃
して補助を継続していくことを考えている。また環境啓発の意味も含めて

一般市民にも対象を拡大したいと考えている。

会 長： 今後、今使用している設備が使えなくなったり、設備の更新が必要となる企業が出てくる。そうすると廃業を選択する企業も出てくるため、自動車以外の大きな設備についても対応しやすくなるような補助や施策を作り企業が残れるようにしてほしい。

事 務 局： 環境と産業は相反する部分があるが、碧南市としては両立をしていかなければならない。企業が環境問題に配慮しつつ継続していくことが大前提である。設備投資については、償却資産の補助をしているが、新しい環境基準を満たすような先端設備の導入をされた場合にはインセンティブを追加することも考えていく。

委 員 G： 地球温暖化防止に向けた取組みの省エネルギーの促進に三州瓦利用促進とあるが、瓦の利用が省エネになるのか。

事 務 局： 瓦は熱吸収が良く、断熱性が高いため、瓦を利用することで夏に涼しく冬に温かいといった省エネ住宅の効果が見込まれる。また、碧南市は窯業も盛んなため地場産業を応援するとともに温暖化対策に寄与できるよう施策として設けている。

委 員 C： 公共バスについて、利用率の高いところを増便し、利用率の少ない路線をなくし、廃線となった路線の利用客は事前申請でタクシーを利用するといった施策をした自治体のことがニュースになっていた。くるくるバスにおいても乗客数や利用率がどういった状況なのかを調査し、市民環境会議で検討してみたいと考えている。

会 長： くるくるバスも非効率に走っていると二酸化炭素の排出量は多くなり、効率的に走ることで環境に良くなる。

事 務 局： くるくるバスは定時路線で南北および中心部を定期的に運行している。時間帯によって乗客の多い少ないがある。地域公共交通については、全国的に見直しを図るよう国から指導がきており、碧南市の公共交通についても商工課にて見直しを図っていく。その際には環境面へのはたらきかけをしていく。

(3) その他

事 務 局： 事業用次世代自動車購入補助について、来年度延長していきたいと考え

ている。また個人向けにも対象枠を広げ、できる限り温室効果ガスの削減に努めてまいりたい。